



ショートコメント

★★★★

Data 2024-26

π<パイ> デジタルリマスター

1998年/アメリカ映画
配給:ギャガ/85分

2024 (令和6) 年3月20日鑑賞

シネ・リーブル梅田

監督・脚本:ダーレン・アロ
ノフスキー
出演:ショーン・ガレット/
マーク・マーゴリス/
スティーヴン・パール
マン/ベン・シェンク
マン/サミア・シオア
イブ/アジャイ・ナイ
デウ

みどころ

『ブラック・スワン』(10年)や『ザ・ホエール』(22年)という名作を監督したダーレン・アロノフスキーの、1998年の“衝撃のデビュー作”がデジタルリマスターで大公開!

本作は、“数字に取りつかれた男の妄想”を、モノクロームで構築した先鋭的な視覚世界と聴覚を襲うサウンドで表現した“カルトムービー”だから、こりゃ必見! 「すべての事象は数値化でき、すべての物事には法則がある」との考え方に取りつかれた男の運命やいかに?

私は中学入学以降、数学が嫌いになったが、本作を観て、そんな自分に納得・・・?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆『ブラック・スワン』(10年) (『シネマ26』22頁)も、『ザ・ホエール』(22年) (『シネマ53』12頁)も、私が星5つを付けた素晴らしい映画だった。その両者を監督したダーレン・アロノフスキーの衝撃のデビュー作が、デジタルリマスター版で復活! しかも、本作は、1998年のサンダンス映画祭で「デヴィッド・リッチとキューブリックの世界を合わせもつ」と絶賛され、最優秀監督賞を受賞した作品だから、こりゃ必見!

もっとも、そのタイトル「π」は、私が中学に入ってすぐに数学が嫌いになった理由の1つだ。さらに、本作は「数字に取りつかれた男の妄想を、モノクロームで構築した先鋭的な視覚世界と聴覚を襲うサウンドで表現したカルトムービー」だから、さてその理解は・・・?

◆並外れた頭脳を持つ数学者のマックス・コーエン(ショーン・ガレット)は、自分で作ったスーパーコンピューターに向かい、「整数論」を基に、株式市場の予測をする毎日を送っていたが、彼の頭の中は「すべての事象は数値化でき、すべての物事には法則がある」という考えに取りつかれていたから大変。彼の研究への没頭ぶりは? その私生活は?

◆本作のストーリーが急展開していくのは、ある日、バーで、マックスがユダヤ教徒のレニー・マイヤー（ベン・シェンクマン）と知り合い、レニーからモーゼの五書に関する 216 桁の数字についての話を聞いたこと。

私にはそのストーリー展開のポイントはさっぱりわからないが、マックスにとっては彼の言葉は大きな啓示（ヒント？）に見えたうえ、ある日、彼のコンピューターが 216 桁の数字を表示したところでショートしてしまったから、アレレ・・・？

◆本作中盤からは、マックスのかつての恩師ソル（マーク・マーゴリス）との会話の中で、少しだけマックスの問題意識や「すべての事象は数値化でき、すべての物事には法則がある」との法則を追い求めていく天才数学者の苦悩のサマを少し理解することができる。しかし、凡人の私たちがそれに共感できないのは当然だ。また、マックスの頭痛がひどくなったり、幻覚、幻聴に襲われる姿もそれなりに理解できるが、それもある意味で自業自得？

しかして、本作の結末は？坂本龍馬は中岡慎太郎と共に暗殺されて 31 歳の若さで死んでしまったが、さて、マックスは・・・？

◆本作のチラシには、次のとおり書かれている。すなわち、

天才的 IQ と数学能力を誇るマックス・コーエン。
宗教真理からウォール街の株価予測まで、
世界は全て数式で説明できると信じ、
マンハッタン・チャイナタウンの自宅にある
自作コンピューターで数字の法則探しにのめり込むお男だ。
そんな彼の永遠のテーマは【神秘の数式】の解明。
しかし核心に触れようとした瞬間、
彼は謎の組織から付け狙われ、
彼の脳内では異常な変化が生じていく。

そんな男の頭の中は、数式でいっぱいらしいが、同時に彼が悩まされている頭痛には、凄まじい音響（耳鳴り）が伴っているらしい。したがって、本作では緊張感を煽るサウンドが鬼気迫る映像に拍車をかけているサマをしっかりと見届けたい。

2024（令和 6）年 3 月 27 日記